

蒲郡北地区 かわら版 第5号

蒲郡北地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

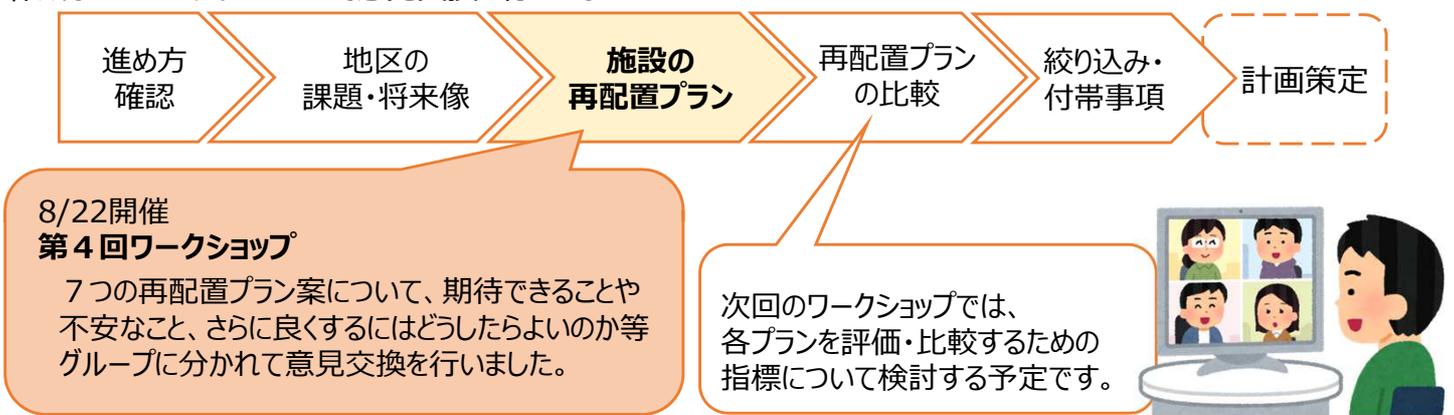
蒲郡市では、今後進む人口減少・少子高齢化による社会情勢の変化を見据え、公共施設の維持更新費用で将来に大きな負担を残さないため「身の丈にあった」施設保有量に適正化していく取り組みを進めています。

そこで、地区内の公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来のあり方について皆さまに考えていただく機会として「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。今回は8月22日（日）に開催した第4回ワークショップの様子をお伝えします。

ワークショップで話し合われている内容等について地域の皆さまからのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップ参加者の皆さまと共有し、検討を進めていきます。（裏面の「ご意見募集」をご覧ください。）

検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップでのご意見をはじめ、地区の皆さまのご意見を踏まえて、蒲郡北地区の将来の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」の検討を進めています。第4回ワークショップでは、令和元年度に話し合っていたいただいた5つの再配置プラン案に加え、小中学校規模適正化方針及び公民館・保育園のランドデザインをもとに新たに作成した2つのプランについて意見交換を行いました。



再配置プラン案の作成にあたって

今回のワークショップでは、令和元年度に作成した5つのプラン（次ページ：A～E案）と新規に作成した2つのプラン（F・G案）について意見交換を行いました。A～E案については皆さまのご意見を整理し作成した「地区の課題の解決策」をもとに、F・G案についてはワークショップの休止期間中に策定された小中学校規模適正化方針、公民館・保育園のランドデザインの考え方をもとに作成しています。

〈8つの視点と地区の課題の解決策〉

視点	地区の課題の解決策
① 地域での活動・交流のしやすさ	① 多様な方々の公衆の場の創出 ② 地域での活動がしやすい施設配置
② 学校教育環境のあり方	③ 小学校の再編 ④ 小学校と中学校の一体化
③ 子育てしやすい環境づくり	⑤ 子育て関連機能の集合 ⑥ 小学校内への児童クラブの設置
④ 高齢者の居場所づくり	⑦ 高齢者が活動できる場の整備
⑤ 安全・安心	⑧ 自然災害からの安全確保 ⑨ 避難所・避難場所の適正配置 ⑩ 交通安全に配慮した施設配置
⑥ 利便性の確保	⑪ 徒歩でアクセスしやすい施設配置
⑦ 将来負担の縮減	⑫ 施設総量の縮減
⑧ 運営の改善	—

〈3つの方針の考え方〉※ 詳しくはかわら版第4号をご確認ください。

学 校：小規模校に分類される蒲郡西部小学校について、近隣の学校も含めた「新しい学校教育体制の構築」を実施。

Aプラン：西部小/北部小を中部中敷地で統合し、「新小学校」を設置。中部中を西部小敷地へ移転。

Bプラン：西部小/北部小を中部中敷地へ集合し、「小中一貫教育」もしくは「隣接配置」。連携協力体制を構築。

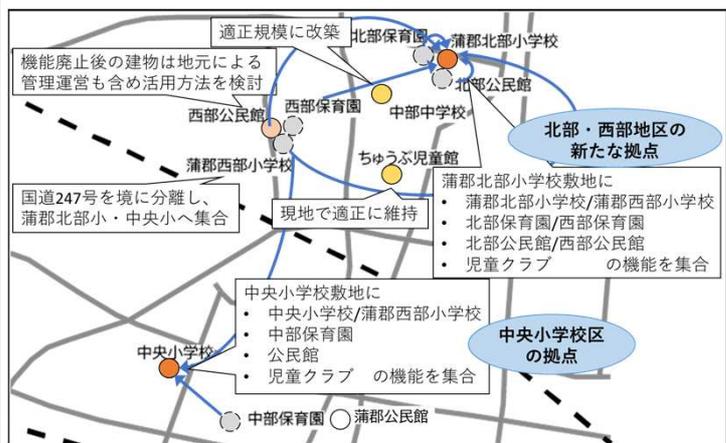
公民館：北部・西部小学校区で1館が相当。小学校との複合化、もしくは校内に公民館活動と連携できる場の設置を検討。

保育園：中部中学校区内の公立保育園を3園から2園に集約。

再配置プラン案についていただいたご意見

今回のワークショップでは7つの再配置プラン案について、期待されること、懸念されること等のご意見をいただきました。なお、実際の施設整備は施設の老朽化具合や他地区・他施設の計画等を踏まえ、段階的に行っていくこととなります。

A 通学の安全を確保し、学校規模の適正化を図るプラン

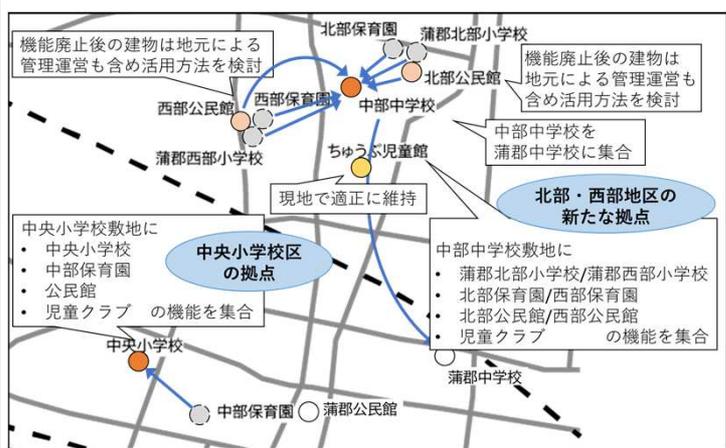


【凡例】

- 機能集合
- 存続
- 廃止・解体
- 跡地利用

- ・学校の通学区域を見直す場合、国道247号線を境界にするのは妥当だと思う。ただし、西部小が分割されることに地域の方がどう思うか懸念だ。
- ・小学校を統合することで場所によっては中学生が自転車通学するより長い距離を小学生が徒歩で通うこととなる。
- ・国道247号線は信号や歩道も整備されており、今後国道23号線バイパスの延伸により交通量が減少することも想定されるため、横断通学をする危険性を考慮しなくてもよいのではないか。
- ・国道247号線で学区を分けるのではなく、南北に分けるのもよいかもしれない。
- ・保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか。（小学校・保育園を集合する案に共通）
- ・西部小がなくなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。また、地区内に公園がなく、学校の校庭は子ども達の遊び場、居場所としても必要だ。（西部小を他校に集合する案に共通）

B 北部地区と西部地区の新たな交流拠点をつくるプラン



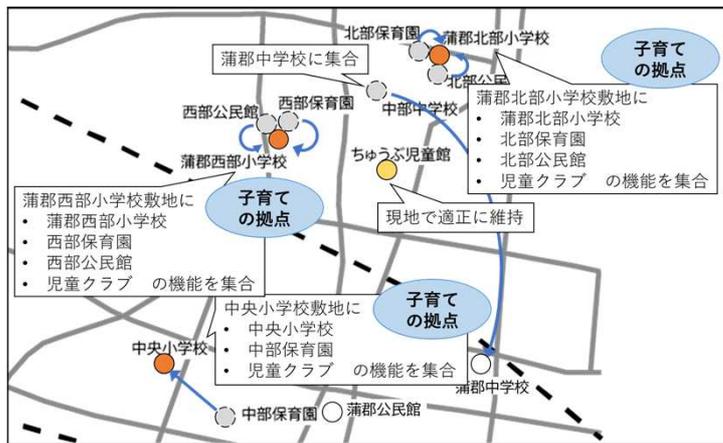
- ・西部小も北部小も地域の真ん中にある中部中の敷地に新しい学校をつくるという印象なので、両地区の住民にとって歩み寄りやすい案だと思う。
- ・北部・西部保育園から小学校への一体感が生まれる点は評価できる。（西部・北部保育園、西部・北部小学校の4施設を中部中へ移転する案に共通）
（以下、中部中・蒲郡中を集合する案に共通）
- ・中学校が大規模になることに不都合はないと思う。
- ・統合に問題はないが、通学距離が長くなることや市内の中学校間で規模の差が大きくなると部活動などで有利不利が出てしまわないか懸念だ。
- ・中学校の統合にあたり、中央小の一部は塩津中へ通う等すると蒲郡中の巨大化を抑制できるのでは。ただし、学区の再編は混乱をきたす懸念がある。
- ・学校の距離が遠くなるが、スクールバスがあると通学の安全性を確保できる。

C 地域の交流拠点をつくるプラン



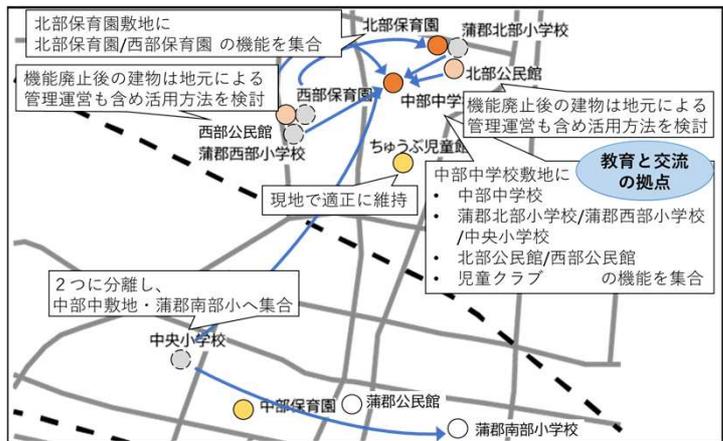
- ・各地域で交流拠点を作るプランであり、地域本来の姿を活かしたプランである。
- ・西部小はクラスによっては人数が極端に少ないため、子どもによっては仲良くにくい状況も出てくる。中央小から子ども達が来て、西部小の人数が増えればバランスも良い。（以下、中央小を他校と集合する案に共通）
- ・児童数の減少により学校を削減する場合、過去に児童数が増えたことで新設した学校から見直しを図っていくのが順序のような気がする。
- ・小中学校規模適正化方針では、中央小は標準規模を維持しており、あえて分離する必要性を感じない。
- ・中央小がなくなってしまうと、通っている児童や地域コミュニティはどうなるのだろうか。
- ・中央小を西部小と南部小に分ける際に、学区境をどこに設定するかが課題だ。

D 地域性を維持し、各地に子育ての拠点をつくるプラン



- 3つの小学校が維持できるため、既存の地域コミュニティを保つことができる。
- 小学校、保育園、公民館が一緒になることで、送迎の負担が少なくなる。また、地域で見守るという点でもよいと思う。
- 施設の集約が少ないので、将来負担が課題となる。
- 西部小の学校規模適正化の解決にならず、人数が少なく仲良くにくい状況も出てくる。
(以下、西部小を維持する案に共通)
- 西部地区、北部地区はそれぞれコミュニティが形成されているので、コミュニティがそのまま維持される点は評価できる。
- 西部小は小規模校という利点を生かし、他では学べないことを学べる等、市の中で特別な学校となってもいいのではないか。
- 西部小エリアは市街化調整区域のため子どもが増えづらい。存続させるのであればどんな機能を持たせるのか議論すべき。

E 充実した教育の拠点と世代間交流の場をつくるプラン



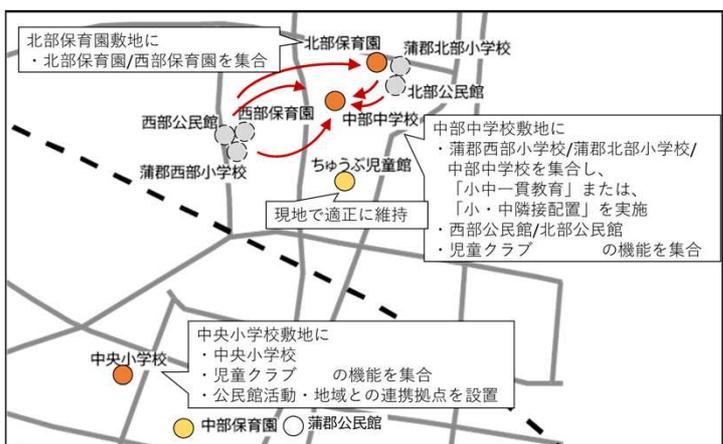
- 中学校と保育園や公民館を同じ施設にすることで、思春期の中学生にも良い影響があるのではないか。
- 子育てしながら働く世代が増えることを考えると、送迎の面から児童クラブと保育園は近い方がいい。
- 小学校が合併し学校規模が大きくなるうえに、小中一貫校にすることで、ますます子どもに目が行き届かなくなることが心配。
(以下、小中学校を集合する案に共通)
- 小学校と中学校で連携できるという点は評価できる。
- 小中一貫校では、小学1年生と中学生が同じように学んだり行事に参加することに無理があるのでは。小学校高学年でリーダーの自覚を養う機会がなくなるのではとの懸念もある。

F 小中学校規模適正化方針Aプランとランドデザインをもとに作成したプラン



- 中部中の移転のために用地拡大が必要となるが、用地取得にはコストがかかるので、財政縮減に効果があるとは思えない。
- 中部中の移転先として西部小学校の敷地が狭いのであれば、北部小学校敷地へ移転してもいいと思う。
- 将来の子ども達に良質な教育を受けてもらえるのならば、統合も前向きにとらえてもいい。(ランドデザインを反映した案に共通)
- 中学校敷地に多くの施設を集約するが、敷地は十分に足りるのが心配。(中部中敷地に多施設を集める案に共通)

G 小中学校規模適正化方針Bプランとランドデザインをもとに作成したプラン



- 中部中が一貫校になる場合、中央小の生徒だけが途中から一貫校に合流するのは、学習進度や友達付き合いなど問題が大きいと思う。
- 中学校から中央小の生徒のみ合流となる場合など、当事者の考えや条件によって、越境入学等学校選択の自由度があるとよい。
- 校長が2人体制の小中一貫校よりも1人体制の義務教育学校の方がスムーズに運営ができそう。(小中学校を集合する案に共通)

全ての案に共通するご意見

【施設の複合化について】

- ・学校施設でも使っていない時間は地域が使うことができるなど、補完しあう関係があれば複合化も期待できる。(調理室等)
- ・複合化することで様々な人が学校に出入りできるようになり、安全面で心配がある。

【学校・学区について】

- ・小学校は地域全体にとって重要な役割を持つ施設なので、市の財政的な利点だけで統廃合を決めるのは良くない。
- ・通学する子どもにとって、小規模教育は情緒の安定や発信力、リーダーシップの養成などメリットが多い。
- ・学校の再編により通学距離が長くなり、子ども達の負担が増えることが心配である。
- ・学校の統合により学区が変わっても、いまの若い世代であればあまり気にならない。
- ・西部小が小さいことが問題になっているが、学区を広げることは考えられないのか。

【子育て環境について】

- ・保育園は保護者が送り迎えをするので、通園距離はあまり問題ではない。
- ・保育園も小規模でアットホームなものなどいろいろなタイプが選べることも意味がある。
- ・児童クラブにおいても、少人数だから受けられるサポートがあるので、人数が増えることでどうなるか心配だ。

【公民館について】

- ・地域のつながりを優先するのならば、公民館も各地に配置されている方がよい。
- ・防災面や高齢者福祉、障がい者福祉の面から、公民館は歩いて行ける距離にあるとよい。
- ・公民館は管理運営を自治組織で行っている。将来的に担い手不足で公民館が存続できるかが心配。

皆さまのご意見をお聞かせください!!

オープンハウスのご案内

<録画配信>

公開期間：令和3年10月14日（木）まで
参加方法：右下に記載のQRコードより参加

<フィール蒲郡店>

日時：令和3年10月9日（土）
午前10時30分から午後3時30分まで

- ワークショップでの検討内容などをパネル展示やYouTubeで市職員が説明いたします。
- 説明後、簡単なアンケートにお答えいただき、蒲郡北地区の皆さまからご意見をいただきます。



過去の様子

録画配信はコチラから！
もしくは
市HP記事ID「0205195」で検索



ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を踏まえて「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **蒲郡北地区のまちづくりや公共施設について**

将来、蒲郡北地区はどんな地域になってほしいですか。日々の生活で感じる些細なことで構いません。以下のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、連絡先の記載をお願いします。

ご意見をお待ちしています!!



次回ワークショップについて

日時：10月31日（日）
午後1時30分～午後4時30分
内容：再配置プラン案の評価

中部中学校にて傍聴ができます。ご希望の方は、右のお問い合わせ先までご連絡ください。
(新型コロナウイルス感染症の状況により傍聴を中止する場合がありますのでご了承ください。)

お問い合わせ先

蒲郡市総務部公共施設マネジメント課
〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
E-mail k-mane@city.gamagori.lg.jp
TEL 0533-66-1214 / FAX 0533-66-1183

詳しくはHPをご覧ください。
(右のQRコード、
または市HP 記事ID「0205697」で検索)

